

研究分担課題

HIV 感染症患者の地域・年齢分布と受診行動の現状調査

研究代表者 猪狩 英俊 千葉大学医学部附属病院・感染制御部長 准教授
研究分担者 塚田弘樹 東京慈恵会医科大学附属柏病院 感染制御部 教授
研究分担者 佐々木信一 順天堂大学医学部 教授

研究要旨：

千葉県 HIV 拠点病院会議(事務局 千葉大学医学部附属病院)の活動基盤を利用し、拠点病院集中型の HIV 診療から地域連携を重視した HIV 診療体制の構築を目的とした。地域での HIV 感染症診療の現状把握を目的に行政と協力し、東京に近い自治体(船橋・市川・松戸・柏・浦安)での受診行動を調査した。

千葉県内の HIV 感染症患者は 40 歳代が多かった。50 歳以上の患者比率は、自治体間で差がみられた。しかし、今後 10 年後には 50 歳以上の患者比率が確実に増加する。

東京に近い自治体(船橋・市川・松戸・柏・浦安)では東京依存型の受診行動である。潜在的患者(東京受診)を過小評価し、地域の現状医療資源を額面通り評価すると、高齢化社会に対応した HIV 診療が後手に回る可能性がある。千葉市は、比較的地域完結型の受診行動をみられ、2 つの拠点病院を中心とする診療体制が確立していた。高齢化(50 歳以上の患者)の進行を想定し、拠点病院と地域の医療機関との連携を進める基盤が整備されている。

患者数が多い東京近郊地域では、東京都内の病院での診療を受けている HIV 感染症患者が多いことは例年通りであった。しかし、高齢者では地域の病院で診療を受ける患者が増加している。今後 HIV 感染症患者の高齢化が進行することを想定した、千葉県内の HIV 診療体制の構築が必要である。

A. 研究目的

HIV 感染症患者の受診動向を把握する。全国的に HIV 感染症患者の高齢化が進行している。2019 年、千葉大学医学部附属病院に通院する患者(315 人)では 50 歳以上の患者が占める割合は 40%を超過した。千葉県健康福祉部疾病対策課の県域調査(2018)では、1441 人の HIV 感染症患者がおり、40 歳以上は 52.9%、50 歳以上は 17.6%という結果であった。地域間の格差があると考えられる。しかし、全国的な動向を踏まえ、HIV 患者の高齢化を想定した診療体制を構築する必要がある。

千葉県内では、身体障害免疫機能障害の認定をとり、自立支援医療で抗 HIV 薬による治療を受けている患者は 1355 人である。千葉市、船橋市、習志野市、市川市、浦安市、柏市、松戸市に居住する者は 808 名で、全体の 59.6%を占める。今回は、千葉市、船橋市、市川市、柏市、松戸市、浦安市に依頼し、この地域の患者の年齢分布と受診動向を調査することを目的とした。

B. 研究方法

千葉市障害者福祉センターに依頼し、2019 年度の自立支援医療の対象患者の年齢と診療病院を調

査する。船橋市・市川市・柏市・松戸市 各自治体の自立支援医療担当部署に依頼し、自立支援医療の対象患者の年齢と診療病院を調査する。(年齢と診療病院情報は非連結) (千葉市分は、千葉大学大学院医学研究院にて倫理審査承認。他地域は、個人情報に抵触しない範囲での情報提供をとりました。)

C. 研究結果

- 1 調査対象患者総数は 789 人で千葉県内の免疫機能障害の自立支援医療を受けている患者の 58.2%に相当する。
- 2 各自治体ともに 40-49 歳の患者が最頻度であった。

自治体	年齢区分とその比率(%)	2018 比
千葉市	50 歳以上	43.5%()
船橋市	50 歳以上	44.8%(↑)
市川市	50 歳以上	34.0%(↑)
松戸市	50 歳以上	35.0%(↑)
柏市	50 歳以上	36.9%(比較データなし)
浦安市	50 歳以上	22.4%(比較データなし)

3 受診行動 (県内受診か東京等の他地域受診か)

自治体	県内受診(2018年 比)
千葉市	72.0%()
船橋市	35.7%(↓)
市川市	31.2%(↑)
松戸市	36.3%(↑)
柏市	39.3%(↑)
浦安市	33.8%

千葉市を除く自治体では、千葉県内で診療する人は少なく、東京依存型の受診行動をとっている。

4 年齢別の受診行動(千葉市のみ)

千葉市では72.0%が県内受診をしていたが、40-49歳の患者層ではその36%が東京での診療を受けていた。しかし、昨年と比較すると東京依存傾向が解消しつつあった。千葉市内の病院を受診する患者は139人で全体の72%であった。その内訳は、千葉大学医学部附属病院と国立病院機構千葉医療センターなど千葉市内の病院受診が127人であった。千葉市内のHIV診療体制が整備された結果、地域内で完結する受診行動にシフトしてきていることが分かった。

D. 考察

千葉県内のHIV感染症患者は40歳代が多かった。50歳以上の患者比率は、自治体間で差がみられた。しかし、今後10年後には50歳以上の患者比率が確実に増加する。

東京に近い自治体(船橋・市川・松戸・柏・浦安)では東京依存型の受診行動である。潜在的患者(東京受診)を過小評価し、地域の現状医療資源を額面通り評価すると、高齢化社会に対応したHIV診療が後手に回る可能性がある。

千葉市は、比較的地域完結型の受診行動をみられ、2つの拠点病院を中心とする診療体制が確立していた。高齢化(50歳以上の患者)の進行を想定し、拠点病院と地域の医療機関との連携を進める基盤が整備されている。

E 結論

千葉県内のHIV患者の年齢分布、受診行動、自

治体間の違いを明らかにした。高齢化と東京依存型の受診行動を想定し、千葉県内のHIV診療体制の構築が必要である。

F 健康危険情報

本研究では介入研究ではないため特記すべき健康危険情報はありません。

G 研究発表

1 論文発表

Komatsu K, **Taniguchi T**, et al.;HIV-Associated Neurocognitive Disorders in Japanese (J-HAND) Study Group (The J-HAND Study Group). Various associations of aging and long-term HIV infection with different neurocognitive functions: detailed analysis of a Japanese nationwide multicenter study. J Neurovirol. 2019 Apr;25(2):208-2

猪狩英俊、柴田幸治 歯科診療施設に求められる感染対策

千葉県歯科医学会雑誌 2019;8:17-18

2 学会発表

築地茉莉子 他 自立支援医療(更生医療)指定薬局の抗HIV薬処方応需状況に関する調査 第33回日本エイズ学会

猪狩英俊 他 千葉県内のHIV感染症患者の受診行動と地域医療の課題 第33回日本エイズ学会

猪狩英俊 HIV感染症の歯科医療体制整備 歯科医療機関の感染対策の現状調査 第33回日本エイズ学会

高柳 晋 他 地域医療連携構築を目標とした透析施設におけるHIV感染者の受け入れ実態調査 第33回日本エイズ学会

鈴木明子 他 地域でHIV陽性者を支えるために実施した意見交換会の成果 第33回日本エイズ学会

谷口俊文 他 感染防止対策加算を算定している病院でHIV感染者を診療できるか 第33回日本エイズ学会

H 知的財産権の出願・登録状況

現時点では特許取得、実用新案登録の予定はありません。